

# 町民と考えるオリンピックの町ワークショップ

## 背景・目的

- 町内から5名のオリンピックを輩出している「オリンピックの町」として全国に対する認知度向上を図るため、平成30年度から「**アスリートと創るオリンピックの町創生事業**」(H30～H32)を展開。
- 幼少期からスポーツに親しむために**トップアスリートとの交流の場の提供**するなどスポーツを通じた交流や健康づくり、人材育成の推進に取り組んでいるが、**取組を継続するためには年齢や障がいの有無を問わず、町民が運動・スポーツを見る・する・応援することができる環境づくりが必要**。
- 今後、町民一人ひとりがスポーツに関わり、「オリンピックの町」として誇れるまちとするため、**町民と一緒にスポーツを軸としたまちづくりを考える**。

## 手法

### 「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ(WS)」開催(計6回(H30:3回、H31:3回))

#### ■参加者の人選

幅広い意見を掘り起こすため、スポーツ関係者(団体)ではなく、**町民を無作為で抽出**し、ワークショップへの参加を依頼(町では初の試み)

#### ■ワークショップの開催

行政の取組を把握した上で、**町民皆様から感じることなどを議論**するとともに、専門家からも意見や視点の提供を行い検討を進める。

#### ■検討結果の報告・関係者への提言

ワークショップでの検討を踏まえ、**行政や町民、地域がすべきことを提言**(説明会の実施)

#### ■Point

無作為抽出方法は、行政と接点の少なかった人や参加を躊躇する人など広範な市民の参加を望めることから、市民と行政の距離が大きく近づく可能性がある。

#### ■Point

同じテーマを継続的に議論をすることで、スポーツはもとより行政に関心がなかった町民の意識や行動の変化も期待できる。

#### ■Point

要望に終始するのではなく、自分たちができることから考えることで、今後の政策や事業をより効率的・効果的に推進できる。

## WS構成

#### ■ワークショップ構成員

○町民：11人(10代:2人,30代:2人,40代:4人,50代:1人,60代:1人,70代:1人)

○短大生：帯広大谷短大

○関係団体：体育連盟、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、報道関係

○コーディネーター：構想日本\* (第4回以降は未定)

○事務局：教育部生涯学習課

\*無作為抽出によるWSのコーディネートを数多く手掛けており、今年度町の職員研修の講師としても実績があることから幕別町の行政について精通している。

## スケジュール

12月22日(土)	第1回WS	行政の取組・方針に関する説明
1月8日	第2回WS	課題について議論
2月25日	第3回WS	課題について議論
4月中旬	第4回WS	解決策について議論
5月下旬	第5回WS	解決策について議論
7月中旬	第6回WS	WSでの検討結果報告・提言